

若林さん(磐崎小)連覇



県プログラミング

福島民友新聞社などで行く実行委員会の主催、全国新聞社事業協議会の共催、県情報産業協会の協賛。「みんなの未来」をテーマに明るい未来に役立つようなコンピュータプログラムやプログラム化したいアイデアを募集し、4個人、

蛭田さん(小)民友賞

全国選抜小学生プログラミング大会県大会は14日、南相馬市原町区の福島ロボットテストフィールドで開かれ、いわき市の若林玲子さん(磐崎4年)が昨年に続き最優秀賞に輝いた。福島民友新聞社賞には、いわき市の蛭田駿さん(菊田4年)が選ばれた。若林さんは来年3月2日に東京都で開かれる全国大会に出場する。



福島民友新聞社賞に選ばれた蛭田さん

1チームが出場した。児童は廃炉作業ロボットや生態系などをテーマにした作品を発表し、工夫した点や制作への思いを語った。

若林さんは将来、おしゃべりなカフェをやってみたいと思い、観光客向けや地元向けなどさまざまな種類のカフェを経営するゲームを発表した。昨年に続く最優秀賞に「本当にうれしい」と話し、全国大会に向けて「グランプリを取りたい」と意欲を語った。蛭田さんは飼っている猫が空腹時や遊びた

い時などで鳴き声が異なることに着目し、どんな時の鳴き声か当てるゲームを考えた。受賞を受け「うれしい。猫と幸せに暮らしたい」と笑顔を見せた。

吉岡廉太郎会津大教授や小野伸一郎福島民友新聞社営業局次長らが審査した。一般社団法人・授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)の共通目的基金の助成を受けた。ほかの受賞者次の通り。

県情報産業協会賞 絶滅救命チーム(金谷獅音・上三宮6年、大塚千聖・同、

広野笑理・同)▽アイデア賞 蛭田亮(菊田6年)

▽福島民報社賞 鈴木悠仁(須賀川16年)

▲全国選抜小学生プログラミング大会県大会で、最優秀賞に輝いた若林さん